

法華經に云わく「皆実相と相違背せず」等云々。天台これを承けて云わく「一切世間の治生産業は、皆実相と相違背せず」等云々。

智者とは、世間の法より外に仏法を行わず。世間の治世の法を能く能く心えて候を、智者とは申すなり。

(御書新版1968ページ・御書全集1466ページ)

通解

法華經には、「(法華經を受持し抜いた人が世間のいかなることを説いても) みな実相(仏法)に違背しない」(法師功德品第19)とある。天台大師はこれを受けて、「一切の日常の生活や社会の営みは、みな実相に違背しない」(法華玄義)と言っている。

智者とは、世間の法から離れて仏法を行ずるのではない。世間において、世を治める法を十分に心得ている人を智者というのである。

 じっせん
「信心即生活」の実践を

よくわかる解説

皆さん、こんにちは！ サンです！ 暑い日が続くね。体調に気を付けながら、元気に御書を学んでいこう☆

今回学ぶ「減劫御書」は、日蓮大聖人が身延で著されたお手紙です。駿河国(現在の静岡県中央部)の門下・高橋六郎兵衛入道が亡くなった後、その縁者に送られたものであると考えられています。

本抄の執筆当時、蒙古が再び攻めてくるかもしれないという不安と恐怖が国中に広がっていました。大聖人は、誤った教えが不幸の根本原因であると指摘され、「優れた法でなければ人々を救うことができない」という道理を示されました。そしてこのような時だからこそ、仏の智慧をもった「智者」が出現し、民衆を救うべきであると述べられ、民衆救済のために戦う大聖人御自身こそ真の智者であると示唆されています。

今回の御文では、仏法とは決して現実から切り離された場所にあるのではない、と教えられています。

現実社会の中で妙法を実践することによって、智慧を発揮することができると言えます。

私たちの生活に当てはめてみれば、友達との人間関係や部活動、進路など、さまざまな悩みに真正面から向き合い、題目根本に乗り越えていく——この「信心即生活」を実践してこそ、大聖人の仏法が生かされていくのです。

また、自分の人生を豊かにするだけではなく、周囲の人々の悩みに寄り添い、共に乗り越えようとする慈悲の行動が、自分をより強くすることにつながっていきます。

池田先生は次のようにつづっています。

「現実生活で直面する課題に対して、御本尊に強盛に祈り、懸命に努力と工夫を重ねて取り組んでいく。厳しい現実社会で信心を貫き、広布に生きていく中で、必ず仏の智慧が湧いてくる。その挑戦を貫く人が『信心即生活』『仏法即社会』の真の中道の智者です」

いよいよ新学期。信心根本に、一日一日を勝利しよう！